

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2004-529894 (P2004-529894A)

【公表日】平成 16 年 9 月 30 日 (2004.9.30)

【年通号数】公開・登録公報 2004-038

【出願番号】特願 2002-569771 (P2002-569771)

【国際特許分類第 7 版】

C 0 7 C 51/06

C 0 7 C 51/09

C 0 7 C 59/10

// C 0 7 B 61/00

【F I】

C 0 7 C 51/06

C 0 7 C 51/09

C 0 7 C 59/10

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 3 月 4 日 (2005.3.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

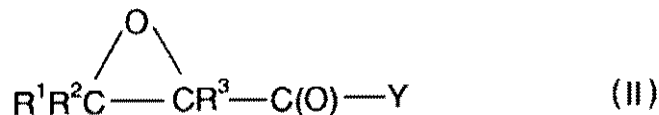
一般式 (I)



[ 式中、 $R^1$ 、 $R^2$  および  $R^3$  は、相互に独立に水素、 $C_1 \sim 1_2$  - アルキル、 $C_6 \sim 1_2$  - アリール、 $C_7 \sim 1_3$  - アルカリールまたは  $C_7 \sim 1_3$  - アラルキルであり、かつ  $X$  は、水素、アルカリ金属、アルカリ土類金属 / 2 または  $NH_4$  である ]

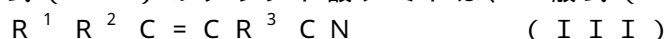
のグリセリン酸化合物を製造する方法において、一般式 (II)

【化 1】



[ 式中、 $Y$  は  $NH_2$  である ]

のグリシド酸化合物を、エポキシ環に水を開環付加させながら鹸化し、その際、使用された一般式 (II) のグリシド酸アミドは、一般式 (III)



のアクリロニトリルを過酸化水素と反応させることにより製造される、グリセリン酸化合物の製法。

【請求項 2】

$R^1$ 、 $R^2$  および  $R^3$  は、独立に水素または  $C_1 \sim 6$  - アルキルである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

$R^1$ 、 $R^2$  および  $R^3$  が水素である、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

鹼化を酸性接触または塩基性接触により実施する、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】

一般式 ( I I I ) のアクリロニトリルを過酸化水素と反応させた後に、反応していない一般式 ( I I I ) のアクリロニトリルおよび他の副生成物を蒸留により反応混合物から分離する、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 6】

一般式 ( I I I ) のアクリロニトリルを過酸化水素と反応させた後に、反応していない過酸化水素を分解する、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 7】

鹼化の際に生じるアンモニアを留去する、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 8】

塩基性接触鹼化の後に生じる一般式 ( I ) のグリセリン酸塩を遊離グリセリン酸に変換する、請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項に記載の方法。